

《年頭所感》

公益社団法人として新たなスタート



日本建築家協会会長 芦原太郎

新年おめでとうございます。

日本建築家協会 (JIA) は本年4月より公益社団法人として新たなスタートをきり、公益寄与と公益保護に向けて活動を展開していきます。地域に根差した建築・まちづくりに具体的に貢献して、一般の方々にもわかりやすい公益寄与活動と、継続教育や倫理の徹底を図り、会員の質と行動を社会に対して保証することによる公益保護を行います。

地域に根差した JIA 活動と復興支援への取り組み

JIAは支部・地域会を主体とした地域に根差した社会貢献活動を積極的に展開して、安心・安全で持続可能な社会構築を目指していきます。災害復興支援に対して建築家が被災地の方々のパートナーとして生活の回復を支援し、復興ビジョンやまちづくりに貢献できるよう人材派遣や制度の提言を行っていきます。

JIAとしても息の長い復興支援活動を継続していくために、復興まちづくり協議会等の制度の推進も行います。復興支援活動を皮切りに、地域に根差したコミュニティアーキテクトの活動を推進すると共に、建築・まちづくり協議会 (日本版CABE) を提唱し、その実現に努めます。

JIA 新会員制度と建築家資格制度の展望

JIAは新会員制度により正会員資格要件を改定すると共に、準会員制度を新設します。

正会員資格要件を厳しく改定し、職能団体として社会に対して会員の質と行動を保証する公益保護を行えるものとなります。また正会員予備軍や協力者を増やし、地域に根差した JIA 活動の活性化のために準会員制度を設けました。

建築家資格制度については登録建築家制度の普及と JIA 正会員資格の明確化に向け、登録建築家を正会員資格要件とすることを目指します。また登録建築家制度の社会制度化に向け、日本建築士会連合会と調整すると共に、将来の国際基準国家資格要件に見合うものとして整理していきます。

建築界のグローバリゼーションと JIA の国際戦略

建築界のグローバリゼーションは進行し、仕事の進め方からアーキテクト資格に至るまで大きく変わりつつあります。日本もグローバルスタンダードに対応できる法資格制度を整備して、二国間交渉による資格相互認証や大学建築学科の国際化とアクレディテーションにまで踏み込んでいく必要があります。

また持続可能社会構築に向けた国際協調活動を推進していくことも重要になってきました。JIA は国際戦略を見直し、国際友好の段階から UIA やアルカシアネットワークを積極的に活用した国際協調活動やクロスボーダープラクティス推進へと転換しました。

国際化と言えば、かつては有名建築家に限られると思われていたかもしれませんが、時代は変わりました。地域に根差してしっかりと仕事をしている建築家達であっても、国境を越えていく時代が到来してきています。